

逗子の景観まちづくり

瓦版 第七十七号

『あしもとの自然』

かつて、地域の自然と人の暮らしの交わる場所に、子どもの遊び場がありました。自然と暮らしが切り離されたことで子どもの居場所がなくなつたのなら、逆に、子どもと本気で遊ぶことで、自然と暮らしをもつなぎ直すことができるかもしれない。

「とびうおクラブ」は10年程前、神奈川県逗子市で当時8人の小学生を対象に「放課後は海で遊ぼう」とはじまった、小さな活動でした。海や森で遊び抜き、子どもが自分で感じて考える活動は、今では未就学児から中学生までのたくさんの子どもが日常的に海を拠点に活動するクラブチームとなりました。



「岩礁でみつけたタコ」

絵：兼子文太郎

二〇二二年十一月十五日 次号は一月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

活動はいつも子どもも主体で、コンディションや季節に合わせて決まってきました。思いっきり水の中で過ごしたり、釣りをしたり、秋はカヌーで沖に出て、波が上げればサーフィンをする。砂浜では砂いじりから始まる子もいたり、鬼ごっこやビーチサッカーで盛り上がることもある。冬は毎年ワカメを育てたりもする。一方で、山をフィールドに活動も広がり、春は野草を摘み天ぷらにすることもある。刻一刻と変化する海と森をもとに自然を学び、その中で逗子の「あそび場」と「食」の地図が自ずと出来上がりました。「逗子アドベンチャーレース」は2018年から始まり、この地図をもとに年に1度行われます。その冒険の場は身近な自然でいつもの遊び場です。チームで協力しチェックポイントをクリアしながらゴールを目指す、子どもたちが描く地図上の軌跡はまるで人生の様で、大きな成長の場でもあります。

子どもたちの日々の遊びの中での経験や、例えば浜辺で見た美しい夕日の中の富士山など、体感した景色がそれぞれに蓄積していき、やがていつか私たちが暮らすこの町の豊かさをづくりだす力になっていくと願っています。

文・地図 一般社団法人そっか発行 「SOKKA JOURNAL」



二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp



逗子景観まちあるきの様子



10/23（日）逗子市まちづくり景観課のイベント『逗子景観まちあるき』が開催されました。雲ひとつない秋晴れのなか全 11 組（20 名）の方が参加してくださいました。お子さんもたくさん参加してください、逗子の緑豊かなまちなみを味わいながらの楽しいイベントになりました。途中で感想をメモしたり、イラストを描いたりしながら 1 時間程度の道のりを散策しました。ゴールは限定公開されていた旧脇村邸。まちあるき後に邸宅内の見学も楽しめ有意義な一日となりました。



配布された冊子を手にコースを回りました。



各ポイントで説明やクイズなどを行いました。



ゴールは築 89 年の旧脇村邸。



邸内でみなさまからの感想を一言いただきました。

亀岡八幡宮の三猿

逗子・鎌倉市内で一番古い青面金剛像と三猿!!

寛文 11 年（1671）笠付型青面金剛像が亀岡八幡宮境内に立っていました。逗子最古の庚申塔は、寛文時代に 7 基あり。その内 6 基は三猿が並んで彫られています。しかしこの地の庚申塔は、今まで見てきた青面金剛像の力強さより女性の優しさを漂わせていると感じました。そして、三猿の彫られている位置が他とは違いました。正面には『聞かざる』しか無く、側面の左面に『言わざる』右面に『見ざる』を分けられて彫刻されている貴重な像でした。

一面六臂の青面金剛像の右手に弓・数珠・宝珠。左手に矛・蛇・餓鬼らしきものを持っています。その他に、正面両側下には二鶏はよく見えませんが、上の格狭間外には日と月がはっきり見えます。持ち物や二鶏については、私の目には明瞭でないので、逗子図書館内の『路傍の石仏・その二』に記載されていたものを書かせて頂きました。そして、この文章の中に、鎌倉を意識している文章もありました。『鎌倉市内最古の坂ノ下、御霊社の庚申塔（1673）よりも早く流行を取り入れているのは、当時の人々の誇らしげな顔が浮かぶ』と書かれていたのも当時の様子が伺え愉快です。稲荷大社の赤い旗が、強風ではためいていた日でしたので、同じ方向からは見えない左右の側面の『言わざる』と『見ざる』をつけ加えて、亀岡八幡宮の一角を表現してみました。

文・イラスト 田中 慶美

